武道流血記

帝キネ時代映畫

原作者　勝本勝雄
監督者　矢内政治
撮影者　立花幹也

——主要役割——

馬鹿の六助（實は鹿島豊後之助）　石綠部
宍道宗左衛門　嵐璃德
鹿島豊後　片岡童十郎
鬼澤一傳齋　東良之助
影山源吾兵衛　中村翫雀
同　源次郎　長田芳川
仲間友平　岩井竹綠
宗左衛門娘　雪枝　高津愛子
上杉彈正　寶川延笑
紀伊大納言　尾上松二郎
種ヶ島主膳　日本一男
紀伊家々老　大野三郎
同　喜多見順
同　淺尾榮次郎

解説——矢内政治氏の「水底」に次ぐ監督作品である。

略筋——寛政の頃、羽州米澤上杉家中に他國の者の覗ふを許さぬ秘術宍洞小太刀流と云ふ劍術があつた。流祖宍洞宗左衛門の仲間馬鹿の六助は、實は紀伊家の指南番鹿島豊後の子息であつたが、父豊後は或る日御前試合に於て卑怯な鬼澤一傳齋のために敗れ、無念の自害をした。そしてその遺言によつて彼は宍洞小太刀の奥儀を究め、仇を報ぜんものと仲間に住み込んだのであつた。事情を聞いて同情した宗左衛門は彼に秘術を傳授したが、そのために重役影山源吾兵衛、源次郎親子の讒訴を受けて閉門の身となつた。それは影山親子が宗左衛門の娘雪枝との縁談を拒絶されたのを遺恨に思つての仕業であつた。それのみならず種ヶ島主膳をして宗左衛門を射殺せしめた。六助即ち鹿島豊後之助は雪枝と仲間友平を伴ひ、直ちに影山の家へ乗込んで親子を討ち、主膳を仆して仇を報じた。

そして宗左衛門の臨終の頼みによつて雪枝を妻として故郷へ錦を飾り、御前試合に於て天晴れ鬼澤を打負かして父の汚名を雪いだのであつた。

寫眞——「武道流血記」帝キネ矢内政治作品。右より高津愛子と明石綠郎。